

ポローニア

ポローニアは県花「桐」の学名です。

第39号

2017-12

平成29年12月15日発行

発行／岩手県高等学校PTA連合会

[事務局]盛岡市上田三丁目2-1

TEL (019) 625-6386

E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp

FAX (019) 613-7795

東北地区高P連 盛岡大会を終えて

岩手県高P連会長 渡辺正和

第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会が、平成29年七月七日、盛岡市民文化ホールにおいて開催されました(前日の情報交換会はホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング)。参加者は、主管県として目標としてきた数を上回る1534名でありました。

私は、二年前に開催された全国高P連岩手大会の実行委員長を務めました。実行委員長に就任したのが大会直前だったため、準備状況は分からないことが多かったのですが、この盛岡大会はスタート時点から関与することができ、初めての経験が多く、とても新鮮でした。

まずは、実行委員会を立ち上げるにあたり、誰に実行委員長を務めてもらうか検討し、二年前の全国高P連岩手大会において



分科会部長として強いリーダーシップときめ細やかな気配りで岩手大会を成功に導いてくれた盛岡二高の工藤優子会長(当時)に務めていただくことにしました。盛岡二高が今年創立二二〇周年を迎えるため、工藤会長は、記念事業の準備で忙しいにもかかわらず、盛岡大会の実行委員長を引き受け、重大な職責を果たしてくださり、感謝申し上げます。

昨年の東北地区高P連仙台大会では、次期開催地挨拶を工藤実行委員長と岩手県高P連役員とわんこきようだいが務めました。ものすごい暑さの中、わんこきようだいに変身してくれたお二人の会長さんの姿はとても愛らしく、盛岡大会の参加者増に二役買ったことは間違いありません。

大会のテーマを決めるにあたっては、県内のPTA会長、事務局長の先生方から数多くの候補を挙げていただき、実行委員会では吟味して「描け ドリームマップ」と決めました。このようなことを発案する能力に乏しい私としては、盛岡大会らしいテーマ候補が数多く出されたことにとても驚きました。

お弁当業者を決める選定会では、三社からそれぞれ二つのお弁当を試作していただき、それらを試食し、意見を出し合い、一つの業者に決めましたが、どのお弁当も工夫されていて甲乙付け難く、選定することの難しさを実感しました。大量に試食したため、その日の晩ご飯を食べることができなかつたのは良い思い出です。

基調講演の講師を決めるにあたっては、多くの候補者が出され、その中から平泉の世界遺産についてお話しいただこうということになり、毛越寺の貫主藤里明久様に決定しました。藤里様にご挨拶に伺ったところ、藤里様は、過去に中学校と高校のPTA会長を務めたことがあるとのこと、PTA活動にはとても理解のある方でいらっしやいました。

PTAスタッフのユニフォームは、工藤実行委員長の決断により、ディープオレンジという赤に近いオレンジ色に決まり、胸に

は生徒のデザインを、背中には盛岡二高三浦真琴先生に大会テーマに関連する「夢」を書いていただくこととなりました。

情報交換会に関しては、会場のメトロポリタン盛岡ニューウイングの担当者とは幾度も協議を重ねました。同ホテルの宴会支配人が盛岡商業高校のPTA会長佐々木稔さんであり、実行委員会からの詳細な要望に対してもとてもきめ細やかに対応してくださいました。宴席のスタイルとして立食を基本とした一部着席方式の要望を伝え、ホテル側からテーブルの割り振り等のアイデアを出してくださったり、メニューについても提案を下さったり、来賓、スタッフの控え室等についての割り振りもとても柔軟に対応していただきました。佐々木会長の多大なお力添えもあり、情報交換会は大変素晴らしいものになりました。

この他にも、大会要項の表紙デザインをどうするか、高校生アトラクションをどうするか、情報交換会のアトラクションをどうするか、来賓用のお菓子をどうするか等々、多くのことをゼロから決めていき、大会当日を迎えました。大会当日の様子については「盛岡大会報告書」に詳しく掲載されておりますので、そちらをご覧ください。

この盛岡大会、実務を担当してきたのは、岩手県高P連事務局です。二年前の岩手大会のときは臨時職員の応援を受けましたが、盛岡大会は、高橋秀幸事務局長、事務局の木村智子さんのお二人だけで、東北の参加者からの問い合わせの電話に対応し、お弁当の宅配、印刷業者との打ち合わせをしたり、ご来賓への招待状を発送したり、奮闘していました。そして、工藤実行委員長もお忙しい中、事務局に何度も足を運び、準備状況について確認、協議、指示をされました。本当に本当にお疲れさまでした。

盛岡大会の準備、そして当日の運営を通じ、県内の学校PTA内の会員同士のつながり、そして学校PTA間のつながりが深く、強いものになったと感じます。盛岡大会を主管したことによって岩手県高P連が成長したことは間違いなく、今後、岩手の高校PTA活動は、より活性化するものと信じています。

盛岡大会に関わってくださったすべての皆さま、温かく見守ってくださった皆さま、ありがとうございました。

第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会

7月6日(木)・7日(金)、盛岡市民文化ホールで開催



▲盛岡二高吹奏楽部

東北各地から約1,500名の参加のもと、「描け ドリームマップ」をテーマに開催されました。6日の各種会議、情報交換会に続き、7日は盛岡第一高校の放送委員会による、彫刻家舟越保武氏の詩の朗読で開会行事が始まり、工藤優子実行委員長の開会宣言、渡辺正和大会会長と全国高P連木戸浩久専務理事の挨拶、岩手県知事・盛岡市長からの祝辞がありました。表彰式ではPTA活動に功績のあった49名の方に表彰状・感謝状、そして広報紙コンクールに入賞した16校に表彰状が贈られました。そして今年度の東北地区役員が紹介されました。続く研究協議では6県の代表からの事例発表がありました。岩手県からは平館高校の橋本光幸会長が「創立70周年に向けて」地域とともに成長するPTA活動」と題して発表を行いました。質疑・意見交換のあと岩手県生涯学習推進センター参加の新妻二男氏から「学校と地域が双方向の関係をいかに築くか。PTAがたぐ存在である」と心に留め、活動してほしい」との助言をいただきました。昼の休憩時間には盛岡第一高校の吹奏楽部による迫力ある演奏と踊りを観賞しました。午後の

部はSGH指定校の盛岡第一高校による今までの研究成果の発表から始まり、続いて「平泉の浄土思想と世界遺産登録」と題して平泉・毛越寺貫主の藤里明久氏の記念講演がありました。平泉文化の歴史、世界遺産登録に関わるお話をいただきました。最後に花巻農業高校の鹿踊りの勇壮な演舞、盛岡第四高校の音楽部による素晴らしい合唱があり、参加者の皆さんを魅了しました。閉会行事では、福島県から次期開催県としての挨拶があり来年の郡山大会での再会を誓いました。最後に工藤実行委員長の閉会宣言で締めくくり無事に幕を閉じました。

今回の大会は岩手県高P連が主管となり運営に当たりましたが、保護者、学校、関係者が全て結集したことで成功裏に終了できたと思います。改めてご支援いただいた方々に感謝申し上げます。



▲盛岡一高放送委員会



▲花巻農業高校鹿踊り

部活を支えるPTA 音楽部

仲間と共に、PTAと共に

岩手県立盛岡第四高校音楽部 保護者 及川美奈子



▲全国大会 於大阪フェスティバルホール

中学三年生の三者面談で四高への志望動機を聞かれた息子は、はつきりと力強く答えた。「今年の四高音楽部は、女声チームが初の全国大会へ出場した。今度は混声で初の全国大会出場を目指したい」と。当時特設合唱部顧問の先生との出会いで夢を持ち、サッカード顧問の先生から学ぶ楽しさを教えてもらい、担任の先生からは、揺らぐことのない強い意志を育ててもらい、晴れて志望校へ入学。そして夢に向かって毎日歌い続けた。朝練から始まる部活ではもちろん登下校の自転車走らせながら、学校の廊下を歩きながら(廊下は静かにと指導受けながらも...)一日の終りには、深夜の入浴中に、来る日も来る日も歌い続けた。お隣りさんも温かく見守ってくれ、高校最後の定期演奏会で見かけた時は、本当にありがたく嬉しく感謝でいっぱいだった。駆け抜けた三年間、情熱を注ぎ共に夢に向かって全力で指導下さった顧問の文子先生、縁の下の癒やし系力持ち、裕子先生、子供達を愛情をもって育てて頂きありがとございました。応援をして下さった全ての皆様ありがとございました。四年連続(混声二度)の全国大会出場を果たした翌日にあった高校生活最後のステージ「中之島まるごとフェスティバル」は、今までの歌声の中で一番伸びた迫力があり、感動して涙があふれました。たくさんの人に支えられたからこそ頑張れた息子たち。本当にありがとございました。

東北地区盛岡大会で発表して

平館高等学校PTA会長

橋本 光幸



7月に開催された東北6県の各地から発表される内容には、子供を持つ親として楽しむ姿の発表が多くありそれらがとても印象的な大会でした。

平成28年よりPTA会長を務めておりますが、本大会の発表の場をいただき、他校の活動内容を理解しながら聞くのはたぶん初めてのことだと思います。そして、自分の思うことを限られた時間で整然と説明することが難しいことであると改めて勉強させていただきました。

10月21日には70周年記念の一環として、東北高校選抜相模大会へ「紫薫杯」を提供し開催されました。その際、PTA会員のご協力により「ひつつみレンジャー」を出動させ会場に暖を与えることができました。試合の方はおかげ様で、平館高校が見事「紫薫杯」を手に入ることができ、関係者一同大変喜んでるところです。

今後とも、生徒の学校環境の改善を一番に掲げ、和気あいあいと楽しめるPTA活動を目指しPTA活動を盛り上げていきたいと思っています。

PTA活動の軌跡

東北大会
個人表彰

軽米高等学校前PTA会長

木戸口 春彦



この度は、「東北地区盛岡大会」において個人表彰を受賞させていただきました。誠に有難うござ

いました。これも先生方、会員の皆様方、そしてお世話いただいた全ての皆様方のお陰と思っています。改めて御礼申し上げます。

例えば、子供が途切れることなく入学したため、いつの間にか軽米高等学校のPTA会長として、七年間務めさせていただきました。会長在任中に大きな出来事として、軽米高等学校でも給食

制度（副食のみ）を取り入れたことです。いろいろ大変な部分もありましたが、議論を重ね妥協点を探りながら、会員の皆様のご理解を得て、導入することとなりました。

また、会長在任期間は、残念ながら入学減をひしひしと感じた期間でもありました。最初のあたりは三クラスでしたが、現在では二クラスになつてしまい、予算の部分でも影響がはじめてきました。

一方、明るい部分もありました。某アニメの聖地効果で、特に文化祭では来校者数が増加し、活気が出てきている等があります。今後も、何かしらの形で軽米高等学校を応援し続けたいと思います。

学びの喜び

東北大会
感謝状受賞

杜陵高等学校前PTA会長

柳澤 美智子



東北地区盛岡大会でこの度感謝状をいただきましたこと、皆様にご感謝申し上げます。

長きに渡りPTA会長を務めてまいりました。これも私一人ではなく杜陵高校の先生方や生徒さん達、PTAの皆様の力のお陰でございます。皆様にはどんな時も支えていただき、様々なPTA活動にご参加いただきました。振り返るとい

つもそこには、学びの喜びがありました。学校での出会い、高P連での出会いの中で沢山の方々といろいろな大会を成し遂げることができました。長い間に多くの方々と知り合い、いろいろなお話をしているうちに学んだことが沢山ありました。このようにPTA活動を通してこれから様々な事があると思っております。これからの皆様の活躍を心より願っております。また私はいつでも知り合った皆様は年齢を問わず同じところの方々と心に残っています。皆様本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

岩谷堂高校・岩泉高校に全国高P連会長表彰の栄誉

岩泉高等学校PTA会長

加藤 栄喜



第67回全国高等学校PTA連合会大会静岡大会におきまして、全国高等学校PTA連合

会会長表彰（団体）の栄を賜り、関係各位に厚く御礼を申し上げます。

本校は地域との関わりが深く、岩泉町から多方面にわたり支援をいただいております。地域の期待に応えるよう生徒のみならず、PTAも活動を行っております。

第67回全国高P連大会 静岡大会開催される

「有徳の人」づくり

「未来のために行動する「人」を育てよう」

8月24日（木）・25日（金）、岩手県からは178名、全国からの参加者は9・384名が参加して、「静岡県小笠山運動公園エコパ」をメイン会場に、全体会が1会場、分科会が7会場で行われました。1日目の開会式では来賓の林芳正文部科学大臣、川勝平太静岡県知事の祝辞がありました。

基調講演は「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」と題して静岡大学名誉教授小和田哲男氏より先人達の生き様から未来を生きていくヒントをつかむことの大切さ、そして子育てと人づくりのヒントについてお話しいただきました。2日目は「これがオレの生きざまだ」と題して、浜松市出身の俳優 寛利夫氏による記念講演が行われました。寛さんの高校時代の

例を紹介すると、「登校時一声運動・マナーアップ運動」では5月～11月の期間、月末金曜日に本校PTA健全育成委員会と、岩泉警察署、岩手県少年警察ボランティア協会、岩泉高校生活委員会・交通安全委員会が共同で行うなど地域と連携した事業を行っています。

この度の表彰を受け、これから本校PTAが、組織として学校と家庭、地域と連携を緊密にし、更に学校の教育事業の援助、推進に寄与する活動に努めて行こうと決意を新たにしているところです。ありがとうございます。

想い出や劇団時代の苦労話とともに、「人づくり」に対する考え方についてお話しいただきました。ユーモアのある話ぶりながら日頃のためめ努力や信念を感じました。その後、分科会報告があり協議された内容について報告されました。

今回の大会中の高校生によるアトラクションもたいへん素晴らしいものでした。郷土芸能、箏曲、吹奏楽、管弦楽そして和太鼓の熱のこもった演奏や演奏に感動しました。

最後に閉会式が行われ、大会実行委員長から感謝の言葉が述べられ、次期開催地の佐賀県へ全国高P連旗が引き継がれ、盛況の幕を閉じました。



中部地区からは、花巻北高等学校・市川清志PTA副会長が活動報告。発表の中で市川副会長はPTA総会の出席率アップの為に取組について紹介。内容や時間帯を工夫し、毎年課題を出しながら試行錯誤した結果27年度は出席率が前年度の2・3倍になった事を報告しました。また、今後は活動をSNSを活用して積極的に発信していく事で、保護者に興味



▲講演に耳を傾ける参加者の皆さん



▲来賓のあいさつを述べる岩手県教育委員会学校教育課 中島新 総括課長

第27回会長研修会 工夫次第、保護者の心をつかむ花巻北高校 時代はグローバル!一人ひとりが輝く住田高校

平成29年度岩手県高等学校PTA連合会(渡辺正和会長)第27回会長研修会が、10月27日(金)と28日(土)の二日間、花巻のホテル千秋閣で開かれました。

研修会には、各高等学校のPTA会長、副会長ら44名が出席。主催者を代表しあいさつに立った渡辺会長は、今年7月6日、7日に開催した東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会への協力のお礼と、大会の成功を報告しました。

このあと研究協議に移り、中部地区と気仙・沿岸地区から二人のPTA会長が事例発表しました。

や関心を持ってもらい、より学校に足を運んでもらう事が必要だと今後の課題についても触れました。

気仙・沿岸地区からは、住田高等学校の千葉孝文PTA会長が活動報告。授業風景や地域との連携、文化祭での取組を中心に発表しました。個別教育に力を入れる取り組みの一環としてスタディーサブリという携帯アプリを用いた新たな試みについて紹介。文化祭の模擬店ではPTA役員か、そうでないかに関わらず保護者の積極的な関りや地域の方々の協力を得て、盛り上げる事ができたという実

感や、無理のない範囲で積極的に協力して環境作りについても話しました。

◇◇◇
続いて講演会に移り、岩手県立総合教育センター主任研修指導主事三田正巳氏に「高校生のネット利用の実態」と題して講演いただきました。

平成29年4月から10月にかけて同センターが行った高校生のインターネット利用に関する調査の結果を見ていきながら、県内の高校生のネット利用の実態について明らかにしました。

講演の中で三田氏はスマートフォンなどによるインターネット利用はほぼ全ての高校生に該当しているものの、長時間のネット利用や、精神的な依存は、3年生の女子の割合が多い事に言及。

多くの高校生が利用しているLINEのトーク機能を利用したメッセージのやり取りなどを例に挙げ、メッセージを読んだのに返事が来ない、グループへの登録が一番最後だった。といったような事が原因となり仲間外れや、いじめにつながったりするだけに、注意が必要と語りました。

また、SNSやLINEといったインターネットを介した情報発信やコミュニケーションツールの発達により、簡単に自分の知りたかった情報にアクセスしたり、知らない人とながりを持てたりする反面、様々なトラブルの原因になる事もあり、地域や家庭と連携し、情報モラルを身につけさせる指導が必要と語りました。



▲岩手県立総合教育センター 三田正巳 主任研修指導主事

西和賀高校・平舘高校 岩手県教育表彰に輝く



平舘高等学校
PTA会長
橋本 光幸

去る11月1日に開催された「いわて教育の日」のつどいの中で平舘高校PTAは岩手県教育表彰を受賞させていただきました。この表彰は「生徒の支援活動に積極的に取り組むとともに、健全育成に尽力するなど教育振興に多大の貢献をした。」ことが評価されたものであり、これまでの歴代PTA会員や役員の尽力の賜であり、深く感謝いたします。

平舘高校は平成30年度に70周年を迎えます。家政科学科のカリキュラムや制服が変更となり、新

たな学校の歴史がスタートします。

高校再編計画が示され、平舘高校も少子化の影響により最近では入学者が定員割れしており、クラブ活動等生徒の活動に制約されるものが多くなってきました。

PTAとしてはどのようにしたら地域に根ざした高校として、生徒が充実した高校生活を送れるのかをテーマに地域の魅力ある高校となれるよう、知恵と汗をかきながら、一丸となって頑張っていきたいと考えております。



つなげよう みんなの心 子どもたちの健やかな成長は皆の願い 第17回 母親会員交流会



▲なごやかな話しあい



▲グループ討議からの発表

岩手県高等学校PTA連合会の第17回母親会員交流会が9月27日（水）、サンセール盛岡で開かれました。

県内の47校から母親会員ら約150人が参加し、「つなげよう みんなの心」をスローガンに掲げ、「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること」をテーマに開催しました。

午前中は、全体協議で2校の事例発表とグループ討議、午後からは一般社団法人岩手県芸術文化協会会長柴田和子さんの「芸術文化はひとつく

り」をテーマにした講演を行い参加者も聞き入っていました。

全体協議では水沢農業高等学校と久慈高等学校がPTAの活動を紹介しました。水沢農業高等学校からは母親委員の高橋幸枝さんが発表。全日本田植え選手権での活躍や温室栽培の花プランターなど学校での取り組みを紹介。また、文化祭での屋台出店や食品製造などについてもお話ししました。

久慈高等学校からは岩城智子PTA副会長が発表。同校は昭和18年に県立久慈高等学校として開校、昭和23年に現在の校名となりました。

陸上競技部は円盤投げ、砲丸投げでインターハイ出場、美術部やマインドリン部など文化

部も全国大会出場などの実績があります。PTA活動についても、各種委員会をはじめ、バザーの開催や、思春期講話など様々な活動を行っています。

2校の事例発表の後、参加者によるグループ別の討議が行われ、各グループ熱い討議が繰り広げられました。

午後からは一般社団法人岩手県芸術文化協会会長 柴田和子さんが「芸術文化はひとつく」をテーマにした講演を行いました。柴田さんは岩手県岩手町のご出身で、2011年の震災で被災地支援のボ

ランティア活動を行っていた際に感じた芸術文化での心の復興についてお話ししました。

「被災地に支援物資を届けようとトラックを用意して荷物を積んでいると、あるおばあさんが真っ白いフェルトで作った可愛らしい人形を段ボールに300体ほどで持つて行ってくれと近づいて来ました。荷台もまだ空いていたので、良いですよと受け取り大槌の避難所に持つていくと、食料や様々な物資よりも真っ先にその人形が無くなりました。さらに親戚や友達にも持つて行きたいと次々に皆さん持つて行かれたのです。」家にも帰れない、物も足りないという過酷で不安な環境の中でこそ、癒しや心の安らぎがいかに人を救うのかを目の当たりにして、芸術文化の大切さをあらためて感じたと柴田さんは言います。

そのような経験から、様々な取り組みを通して、芸術文化で心を育てる事に尽力してきたという柴田さん。芸術文化は人づくりの基礎。子どもも大人も芸術に触れる環境を少しでも多く作る事が私の使命だと締めくくりました。



▲講演 柴田和子さん



▲創立70周年記念式典



▲花泉夏祭り 日本一のもちつき大会

がんばる岩手

花泉高等学校PTA会長 佐藤 忠義



花泉高校は全校生徒一〇八名の小さな高校です。しかし、歴史は古く、本年度で創立七〇周年を迎え、十月二十八日に記念式典と祝賀会を行いました。記念式典は一関市長様をはじめ沢山の来賓の方々に参列をいただき、盛大に行われました。司会進行や記念行事の説明などは生徒が行い、私たちPTAは実行委員として受付を担当したほか、祝賀会では司会進行などの運営に努めました。

現在、花泉高校は校訓の「知行合一」のもと、文武両道に励み、進路実績としては、就職率は毎年一〇〇%、進学面でも国公立大学を始めとして四年制大学や短大、専門学校に数多く進んでいます。部活動も少人数ながら活発に行っています。また、たくさんのボランティア活動に参加し、地域の活性化にも貢献しています。

PTA活動も活発で、朝の挨拶運動は年二回実施し、保護者全員の参加を呼びかけました。花泉夏祭りの「日本一のもちつき大会」には三年連続参加し、三年連続入賞を果たしました。文化祭では恒例となっている餅振る舞いを行い、模擬店では豚汁と玉こんにやくを出し、大好評でした。環境整備活動は休日開催でしたが生徒も含めて百人以上の参加がありました。

花泉高校は少人数ながらも頑張っています。私たちPTAはこれからも子どもたちの活動を支えながら、高校を盛り上げて行きたいと思っています。

第47回 事務局長研修会

平成29年11月2日(木)
会場／サンセール盛岡



▲発表に耳を傾ける事務局長の皆さん

「変革の時代、心豊かに逞しく 生きる高校生の育成目指して」

平成29年度第47回事務局長研修会は57校からの参加者で行われ、2校の研究協議発表、各校提出競技題について活発な意見交換等が行われた。

花巻北高校PTA活動について

花巻北高等学校 川村 圭司先生



「PTA総会の出席率アップに向けて」5年間の変遷を報告する。24年度

13・3%をきつかけに25年度から改革を開始した。まずは総会会場の変更を実施し、ホールから体育館へ変更した。19・4%へアップ。26年度はより多くの保護者が参加できる時間設定(18時から)と総会会場を学外とし、講演会も実施し、21・1%にアップした。変革から3年目の平成27年は祝日に総会を実施した。進路講演会と文化部の演奏会。そして案内文書の工夫をした。年度末に一次案内を配布し、

二次案内はPTA会長のリクエストでポップなチラシを作成した。「これを聞かなければ損をしたという危機感を与えるようなキャッチコピーも考案した。総会は民間施設なので駐車場係の先生を配置する必要もない。また5時間目までをフリーに参観できる公開授業とした。総会当日は夫婦での参加者も多く会場はほぼ満席となった。進路指導主事と副校長による進路講話、吹奏楽部、合唱部の発表もあり26年度の2・3倍の48・9%にアップすることができた。28年度は同じ内容で37%、29年度も同様実施で28%であった。次年度の課題として学年PTA研修会とのドッキングを検討している。

まとめとして、これからは学校の活動について情報を保護者に向けて発信していくことが不可欠である。SNSを利用して手軽に興味を持ち、保護者が学校に足を運ぶ機会を作っていきたい。

住田高校のPTA活動について

文化祭(住高祭)での取り組みを中心に

住田高校 三浦天豪先生



住田高校では授業でスタディサプリを導入し、学び直してから大学入試まで学習支援を実施している。また

グローバルな人材を育てることを目的にオーストラリアへのホームステイ等海外派遣研修もある。そして地域と連携として給食があり、通学距離が6

km以上ある生徒には3分の2の交通費を援助している。郷土料理作りでは中学生と一緒に実施し、森の保育園では園児の頼れるお兄さんとなり、ボランティア活動に意欲的に取り組んでいる。

PTA活動については、毎年役員決めに時間を費やすことから昨年会長会で報告してくれた学校のアンケートを模倣した。アンケートに希望を伺い、それを入学手続き時に持参してもらった。その結果スムーズに役員が決まり大変ありがたかった。住高祭では卒業生が出演し、詰め放題や「親父たち特製焼きそば」も好評であった。自発的に参加してくれる役員も多く、何か手伝うことはないか?など言ってくださる方も多く助かった。来場者も昨年より多く午前中にはほぼ完売し、午後の生徒たちの発表を楽しむことができた。現在、来年の創立70周年を迎えるため、実行委員会を中心に取り組んでいる。

〈各校提出議題及び連絡事項〉

①東日本大震災における各学校の支援

3年目までは収入にかかわらず諸会費の免除等控除してきた。今はいわて希望学び基金を使っている生徒のみとなっている。来年も措置を予定している学校は5校くらいある。これから生徒数の

減少に伴い見直しも出てくる学校もあると思う。

②PTA役員をスムーズに決める方策について

住田高校の発表にもあったように事前アンケートを実施するとスムーズにできると知った。参考にして取り組みたい。

来年度は佐賀県で開催される。各学校で予算案の時は考慮していただきたい。佐賀市、唐津市、鳥栖市、嬉野市が主な会場となる。事務局としても仙台空港、花巻空港、羽田空港など飛行機がとれやすいように斡旋予定である。

(記録 前沢高校 峯井 直子先生)



▲討議の様子

請求なければ支払いなし

(一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA単位で加入する制度で発足後16年目となりました。

〈加入状況〉

・全国 2,186校/1,296,194人 ・岩手県 68校/27,641人

〈事故の際は〉

全高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110

岩手県高P連高校生総合保障制度

〈加入状況〉 Aプラン(病気補償あり) 63校 2,276人
Bプラン(病気補償なし) 59校 509人
Cプラン(自転車重点型) 62校 1,079人

〈引き受け保険会社〉 AIU損害保険株式会社盛岡支店
TEL 019-653-1411

岩手県高P連委員会活動報告



PTA会長
下館佳光
(久慈高校)

保護者の使命は

今年度も健全育成委員会の主要な取り組み「登校時一声運動・マナーアップ運動」を引き続き実施しており、県内各校から積極的に取り組んで頂いているとの報告を受け深く感謝申し上げます。6月の健全育成委員会で昨年度の引き継ぎや今年度の活動方針について話し合いました。委員の方々から効果的な活動事例を紹介いただきました。地域複数校合同での活動によるメリットや補助予算を活用しハード面の充実

を図るなど、様々な気づきがありました。余談ですが、それを参考に本校では県P連特別助成費へ予算申請してPTAジャンパーを作成させて頂きました。様々な活動時に着用して連帯感を持ち息の合う活動をしてまいります。

9月の東北高P連の健全育成委員会では、活動報告のリーフレットに「自立した社会人の育成をめざして」と題した特集を作成します。高校生活で学業や心身を鍛えることはもとより、家庭や地域社会の中で他者との協調性や倫理観・社会的適応能力を高めることも重要であり、我が子を立派な大人として社会に送り出すことが保護者にとって使命です。一声運動をはじめとした健全育成委員会の活動がその一助となれたらと思っております。

健全な成長を願いながら今後とも意欲的な実践協力を宜しくお願い致します。



進路対策委員長
山崎 元
(盛岡工業高校)

進路実現にむけて

今年度の活動は、6月21日サンセーブル盛岡で第1回進路対策委員会が開催され、活動方針が話し合われました。昨年度は、県内4ブロックに分けて、会社側へのアンケート調査を行い、結果を「進路に関する啓発リーフレット」にまとめたようです。今年度は、離職率の問題を踏まえ、「各学校からの聞きたいこと」と「企業の採用担当者の考え」をマッチングしてはどうか?、「コミュニケーション能力の育成」が必要では?、成功例の紹介やプロの方の意見などを

伺う機会を設定しては?など活発な意見交換があり、結果、「企業が求める人材:コミュニケーション能力の育成、社会人(職業人)として大切なこと」をテーマに、県内企業の採用担当者を講師として招き、進路対策委員と座談会形式による意見交換会を開催することとなりました。講演会の内容については、リーフレットを作成し、皆様にお伝えします。また、10月6日には東北地区高P連進路対策委員会が福島県で開催された。その中で、株式会社アポロガス篠木雄司社長の「人生の生き方の実践」の講話があり、ユニークな社員教育を通じて、人材育成を行っている様子が紹介され、研修の大切さを改めて実感されました。これからは生徒たちの進路にむけてPTAの皆様のご協力をお願い致します。



PTA会長
高橋輝彦
(西和賀高校)

広報紙の大切さと難しさ

本年6月東北地区高P連総会・第一回各委員会を受け、同月サンセーブル盛岡において県高P連第一回合同委員会・各委員会が開催され活動がスタートしました。

その後秋田市で第二回東北地区調査広報委員会を行い、平成29年度広報紙コンクール実施要項が示されました。選考は次の審査観点により行われます。①学校と家庭を結ぶ紙面づくり②見やすく、読みやすい紙面づくり③学校の現状を十分に伝達する紙面づくり



母親委員長
藤原里佳
(平館高校)

集う場として

今年もスローガンを「つなげようみんなの心」テーマを「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること」として第17回母親会員交流会を9月27日に48校137名の母親会員の方々に参加頂き開催いたしました。

午前の部は水沢農業高等学校と久慈高等学校から活動事例を発表して頂きました。どちらの学校も地域や学校の特色を活かした活動内容で、大変参考になりました。その後グループ討議を行い各校の活動内容や子育てに関する

④特色ある紙面づくり(特集記事等)となっております。いかがでしょうか。この4項目は正に各校の広報担当者が、平日頃目指されている事と一致するのではないかと考えております。とは言ってものこの紙面を紙面に忠実に表現することの困難さは私も存じております。しかしなぜ皆さんがこの4項目を目指されるかと言うと、そう大切なことを認識しているからだと思えます。コンクールは、腕の見せ所ではありませんが、単なる競い合いではありません。高い評価を頂くことによつて、読者が本当に見やすい読みやすいと思われ興味を持って下さっているかという確認の場、バロメーターの場と見ます。

皆様のいろいろな想いの入った広報紙を、丁寧に厳正に審査させて頂きます。ご応募有難うございます。今後とも関係者皆様の御協力をよろしくお願い致します。

悩みなど様々な意見交換をし、日頃の悩みやストレスを発散させる有意義な時間となりました。

午後からは全体討議を行い、グループ討議で話し合った内容を発表して頂きました。グループ毎に話し合った内容に特色がありました。PTA活動や子育てに関する悩みは共通している所が多いと感じました。その後「芸術文化はひとづくり」をテーマに一般社団法人岩手芸術文化協会会長柴田和子先生からお話を頂きました。柴田先生の生い立ちから子育ての話、芸術が人の心をいやすし動かす原動力となることを教えて頂き、パワーをもらいました。最後に秋田県高P連母親委員長の山信田勢津子様に講評を頂き岩手の盛んなPTA活動に感心されました。これからこの交流会が母親会員の皆様の交流を図る有意義な場として参加して良かったと思つて頂けると幸いです。

楽しく^_^

岩手県立盛岡第一高等学校
PTA会長

渡辺 正和

本校は今年で創立106年を迎える聞こえに障がいがある子どもたちのための学校です。「明るく、強く、正しく」の校訓のもと、幼稚園から高等部専攻科までの子どもたちが学んでいます。高等部は普通科、産業技術科があります。高体連や高文連に加盟し陸上競技大会や高総文祭に向け、子どもたちも部活動に励んでいます。本校のPTA組織は、庶務、教養、厚生部の三つの専門部が事業を担当しています。庶務部はPTA通信、会報の発行。教養部は保護者の希望をもとに生徒の将来の進路決定に寄与する目的で、職場見学会や講師を招いての進路研修会を行います。また、年二回子育ての話題を中心とした茶



今のまま、
笑顔を忘れずに

盛岡聴覚支援学校
PTA会長

松森 義彦



本校は今年で創立106年を迎える聞こえに障がいがある子どもたちのための学校です。「明るく、強く、正しく」の校訓のもと、幼稚園から高等部専攻科までの子どもたちが学んでいます。高等部は普通科、産業技術科があります。高体連や高文連に加盟し陸上競技大会や高総文祭に向け、子どもたちも部活動に励んでいます。本校のPTA組織は、庶務、教養、厚生部の三つの専門部が事業を担当しています。庶務部はPTA通信、会報の発行。教養部は保護者の希望をもとに生徒の将来の進路決定に寄与する目的で、職場見学会や講師を招いての進路研修会を行います。また、年二回子育ての話題を中心とした茶



▲東北地区高P連盛岡大会でのうれしい再会

「夏のPTA東北地区大会でお手伝いしたPTA会員が「小学校で役員をやつてもう絶対やりたくない」と思ったけど、こんな楽しいなら役員やれば良かった」と話していた。一高のPTA活動は楽しいです。母親会交流会で実施したアンケート「PTA活動の自慢できる特色」の本校の回答です。楽しいPTA活動を今後も続けていきたいと思っています。

県や盛岡地区の母親会交流会に参加しています。PTA活動をする、会員同士の交流も増え先生方とお話しする機会が増え、そして何より、子どもたちのためにもなっている（はず）ので、良いことだらけです。



▲PTAふれあい事業 野外バーベキュー

話会も行われています。厚生部はPTAふれあい事業として、野外バーベキューを実施し、子どもたちはオリエンテーリングなどをおこない、平行して保護者間の懇談時間を設け楽しく充実した活動となりました。文化祭である「盛輝祭」では、PTAコーナーを設置し掲示物で活動の様子を多くの会員に知らせるとともに、軽食喫茶コーナーで全会員が協力し合つて大成功に終わることができました。子どもたちが明るく楽しく過ごすために、PTA活動を通じて保護者と教職員とが通じ合うことも、子どもたちの笑顔や頑張りにも繋がるひとつであることと願っています。

編集後記

ある「あいさつ」をテーマにした講演会に参加しました。最後の質疑の時、こんな質問がありました。年上の人と年下の人とは、どちらが先に「あいさつ」をするべきか？という難問でした。様々な場面でも事情が変わってくる。という思いが頭に浮かびました。講師先生の回答は、敢えて記載を控えさせて頂きました。さて皆様はどの様に考えられるのでしょうか。恐らく賛否両論。正しい答えなど無いんだらうと思います。因みに私がたどり着いた答えは、年上も年下どちらも気が付いた方が先にすれば良い、と思いました。様々なシチュエーション、親と子、先生と生徒、先輩と後輩、上司と部下、少しそぐわないと思われる関係もあるかも知れませんが、私はシツクリとした感情を持ちました。むしろ先に声を掛けた方が何か優越感を持つ気がするの、私だけでしょうか。そう考えると、相手より先に「あいさつ」を仕掛けたいくなります。皆様は普段どの様にしておられますか。よく「あいさつ」は人と人との潤滑油と言われ、大切なと理解されております。先に油をさせる人になりました。子供達には先に示すよう指導していますが、改めて自分が出来ているかどうか。今後ともPTAの皆様のご協力をよろしくお願い致します。

（調査広報委員長・高橋輝彦）

委員長
副委員長
委員

高橋 輝彦（西和賀高校）
金澤 秀晃（花巻北高校）
長澤 由子（雫石高校）
鈴木 圭（大東高校）
藤井 勉（釜石商工）

事務局

杉村 文枝（西和賀高校）
高橋 秀幸（県高P連）
木村 智子（県高P連）

（編集委員）平成29年度調査広報委員会